

連携先	SAP/メインフレーム	利用シーン	MDM	業種	製造業
-----	-------------	-------	-----	----	-----



企業統合・再編に伴う課題解決のため 既存システムを活かした マスターデータ管理 (MDM) を実現

三協立山株式会社
 富山県高岡市早川70番地
 URL <http://www.st-grp.co.jp/>
 従業員数 5,557名 (2016年11月30日現在)

導入背景

三協アルミで広く知られる三協立山株式会社は、三協アルミと立山アルミが合併して誕生した建材メーカー。各社の事業の強みを活かし「環境技術でひらく、豊かな暮らし」を実現する企業グループとして、日々事業を営んでいる。しかし、合併した各社がそれぞれ異なるメーカーのメインフレームや多数の業務システムを保持していたため、統合、再編が進むにつれ、システム間の個別連携が入り組み、システムメンテナンスコストが増大していった。また、個々の業務システム毎にデータを保持していたため、集計、分析作業の際には、複数システムからデータを収集しなければならず手間がかかった。

課題

- 実績データが散在。分析作業の際には、複数システムからデータ収集後、Excel、Accessなどで再加工しなければならず、利用者の利便性が低下。
- 多数の業務システムを個別連携。接続先設定などの接続コスト・メンテナンスコストが増大。
- 連携をスクラッチ開発していたため、メンテナンスや管理面で問題が生じていた。

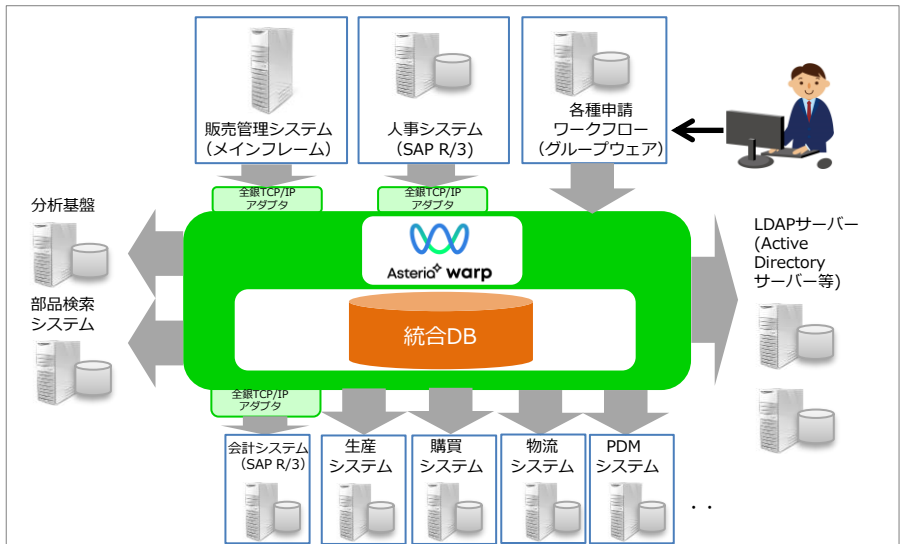
導入

- 統合マスターを構築
各業務システムに分散していたデータを一元化、標準化しASTERIA Warp経由でアクセス。
- ID連携
新入社員情報を統合DBに登録すると全業務システムのIDが自動登録され、シングルサインオンのIDが生成される仕組みを構築。
- データ分析基盤を構築
統合DBからデータを抽出し、分析用のデータマートを生成。

効果

- データ分析が容易に
データマートに抽出された分析用データを容易にBIツールで分析できるようになった。
- 開発コストの削減
従前1-2日間を要していた連携処理を30分でスピード開発可能に。
- メンテナンス性の向上
ASTERIA Warpでシステム全体が可視化できるようになり、メンテナンス性、可用性が向上。

システム構成図



ASTERIA Warp選定理由

- 他のEAI製品に比べ、データの流れが可視化できる
- GUIベースの使い易いフローデザイナー
- ASTERIA Warpマスターパートナーである株式会社インテックの手厚いサポート

今後の予定

- 数十社に及ぶ関連工場への生産指示、納期連絡等の情報連携にも今後活用していく予定

お客様から一言

ASTERIA WarpのココがGood!



情報システム統括室
システム開発部
開発六課
主事 飯野 達也 様

比較検討したEAI製品は、処理フロー型でしたので、特定のデータがどの処理を流れるのかがわかりにくかったのですが、ASTERIA Warpはデータフロー型ですので、フローを見るとデータ毎にどのような処理がされるのかが一目瞭然とわかります。



情報システム統括室
システム開発部
開発六課
中田 誠二 様

開発経験が浅い私でも、直感的な操作で容易に開発できるので便利です。パートナーが作成したテンプレートを利用してはいますが、自力で開発、デバッグをすぐに行えるようになりました。